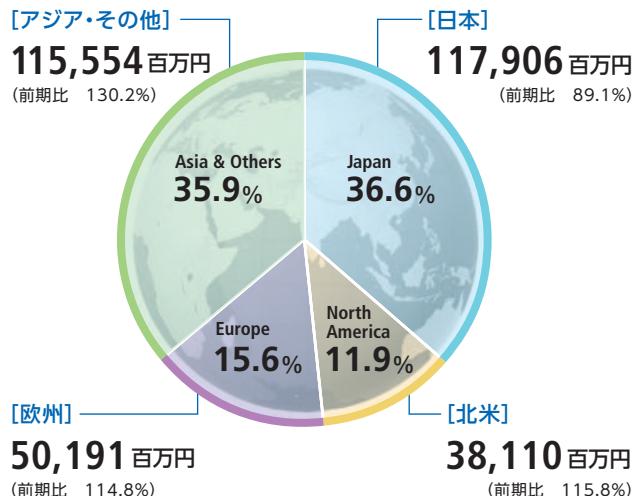


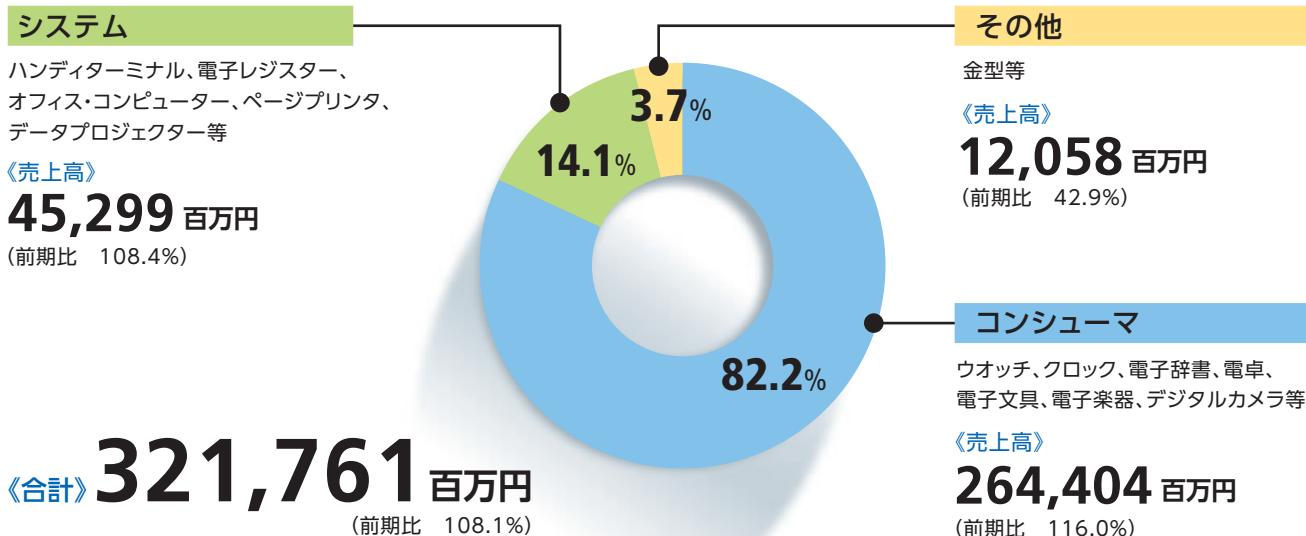
業績ハイライト

科目	連結会計年度	
	2013年度	2012年度
経営成績		
売上高 (百万円)	321,761	297,763
営業利益 (百万円)	26,576	20,053
経常利益 (百万円)	25,743	19,702
当期純利益 (百万円)	15,989	11,876
1株当たり当期純利益(円)	59.47	44.17

売上高の地域別構成比



売上高のセグメント別構成比



当期(2013年度)の業績概要

当期における内外経済は、新興国の景気停滞懸念があるものの、国内では政府による経済政策の効果により、企業業績や雇用環境は改善され、景気は回復基調で推移しました。

この環境下、当期の売上高は、対前年同期比8.1%増の3,217億円となりました。セグメント別内訳は、コンシューマが2,644億円、システムが452億円、その他が120億円となりました。

時計は、世界的なブランド戦略の強化により、「G-SHOCK」や「EDIFICE」といったブランドが、北米や中国などの海外市場を中心に好調に推移し大幅な増収となりました。また、女性向けブランドでは「Baby-G」や「SHEEN」が順調に推移しました。電子辞書は「エクスワード」シリーズの販売が学生向けモデルを中心に堅調に推移し、引き続き国内で圧倒的なトッ

プシェアを維持しました。電子楽器は電子ピアノの販売が順調に拡大しました。

損益につきましては、コンシューマが355億円の営業利益となりました。時計や電子辞書は引き続き高収益性を維持し、楽器は高付加価値の電子ピアノ拡大により、収益性が改善しました。また、デジタルカメラは独自のハイエンド製品特化により、利益を確保しました。システムは17億円の営業損失、その他は5億円の営業損失となりました。

この結果、調整後の連結合計として営業利益は265億円(対前年同期比32.5%増)、経常利益は257億円(対前年同期比30.7%増)、当期純利益は159億円(対前年同期比34.6%増)となりました。

次期(2014年度)の業績見通し

国内景気は底堅く推移するものと予想されます。このような中で、当社は独自技術を活かした製品の積極的な世界展開を推進し、業績の大幅向上を目指します。主な施策は以下の通りです。

① 時計事業は、GPSと電波のハイブリッドモデルやスマートフォン連携Bluetooth®モデルなどの最新技術を搭載したウォッチを投入し、高付加価値化を図ります。また、「G-SHOCK」をはじめとした6ブランドを強化し、さらなる事業拡大と高収益性の維持を図ります。

② 電子辞書事業は、国内市場においては、小学生向けモデルを強化し、新ジャンルのデジタル単語帳のラインアップ拡大により、事業拡大と高収益性の維持を図ります。海外市場においては、中国に加え、ASEAN市場での開拓を行い、事業拡大を図ります。

③ システム事業は、原価低減と新技術導入により、プロジェクター事業の収益性改善を図ります。

④ 新規事業は、「カシオサイネージ事業」の大口受注先拡大を図ります。また、「デジタル絵画事業」はアートクロックの投入と絵画コンテンツの拡大を図ります。

⑤ 全事業で海外エリアの販売強化を図ります。

2014年度業績見通し(連結)

売上高	3,500億円 (前期比 108.8%)
営業利益	350億円 (前期比 131.7%)
経常利益	330億円 (前期比 128.2%)
当期純利益	230億円 (前期比 143.8%)